

授業科目(ナンバリング)	生活支援技術ⅤA (DB312) (実践的教育科目)			担当教員	※田中 千恵美 (実務経験のある教員)		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習は、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とするため、生活支援技術ⅠA～ⅣBを踏まえる。その上で疾患や障害等による利用者各々の特性に対応した実践力を修得する。介護を必要とする利用者に対しては、その特性の如何にかかわらず、各々の利用者の望む環境で、生活を維持できるよう支援していかねばならない。本演習では、利用者の尊厳保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得していく。様々な機能障害が起こり、疾病等が生じる事例などを、実務経験を踏まえた事例やディスカッションなどを織り交ぜながら、より理解を深めていく。</p>							③⑧⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	利用者各々の疾患や障害の特性を科学的な根拠も踏まえて理解し、適切な介護技術の展開及び多職種との連携を主体的に展開する具体的な方法を説明できる。				・小テスト ・定期試験	10% 40%	
情報収集、分析力	利用者の疾患や障害の内容を調べ、それらに影響をおよぼし又は起因する背景についても調べ、それに対し指摘できる。				・課題レポート	10%	
コミュニケーション力	疾病や障害がある利用者へ、より適切な支援方法をディスカッション等を通して自分の考えを表現し深めることができる。				・ディスカッション	20%	
協働・課題解決力	疾病や障害がある利用者へ支援する視点に加え、セルフコントロールに向けての支援方法や課題を説明できる。				・定期試験	20%	
多様性理解力	疾病や障害があり、個別の価値観や生活史を持つ利用者により適切な支援方法を展開できる力を培うことができる。				・定期試験		
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の成績を60%とし、筆記試験を行う。 ・小テスト 7回目と13回目に30分程度の小テストを行う。 ・課題レポートの成績を10%とする。詳細は授業中に説明する。 ・グループディスカッションの取り組み(20%)や演習態度なども勘案して総合的に評価する。 ・小テスト及び課題レポート等のフィードバックは授業中に適宜行う。また、小テストの内容は自己学習の資料としても使用する。 							
授業の概要							
<p>生活支援技術ⅠA～ⅣBを確認し、利用者の状態・状況に応じた生活支援技術を学ぶため、多様な疾患や障害のある利用者を設定し、基本を振り返りながら、事例をもとに、アセスメント、支援方法の検討、デモンストレーションを行いながら、利用者への生活支援技術を学ぶ。また、医療的な側面についても、医療職とうまく連携が取れるよう必要な知識・技術を学ぶ。更に、様々な機能障害が起こり、疾病等が生じる事例などを、保健師・看護師の経験を踏まえた事例などを織り交ぜながら、より理解を深めていく。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：最新・介護福祉士養成講座8／生活支援技術Ⅲ／中央法規 最新・介護福祉士養成講座14／障害の理解／中央法規 ぜんぶわかる人体解剖図／成美堂出版</p> <p>参考書：日野原重明監修／介護を支える知識と技術／中央法規</p> <p>指定図書：特になし</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

利用者のもつ疾患や障害等に対応し、利用者の多様な状態・状況に応じた生活支援を行うために、今までに学んできた基本的な生活支援技術を実践に活かせるように、復習しておいて下さい。また、日頃から、利用者の尊厳の保持や自立支援も配慮できるよう考える。

演習にあたっては、多様な利用者の生活支援への応用や工夫ができるよう自ら考え、取り組むことを期待する。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは	様々な障害分野における利用者の状態・状況を理解した上で介護福祉士に求められることを考えていく。	予：障害者対応における日本の歴史を調べ 復：要点整理
2	内部障害に応じた介護①	心臓機能の障害によって生じる疾患について学び、そこから考えられる機能障害および療養について考えていく。(食事、清潔、排泄等を含む)	予：心臓の機能・虚血性心疾患・不整脈調べ 復：要点整理
3	内部障害に応じた介護②	心臓機能の障害がある人の主な治療、生活支援、環境整備、多職種との連携について学ぶ。	予：ペースメーカー装着者の生活上の注意点を調べ 復：要点整理
4	内部障害に応じた介護③	腎臓機能の障害によって生じる疾患について学び、そこから考えられる機能障害および療養について考えていく。(食事、清潔、排泄等を含む)	予：腎臓の機能と急性・慢性腎不全について調べる 復：要点整理
5	内部障害に応じた介護④	腎臓機能の障害がある人の主な治療、生活支援、環境整備、多職種との連携について学ぶ。	予：血液透析者の日常生活上の注意点を調べる 復：要点整理
6	内部障害に応じた介護⑤	膀胱および直腸機能の障害によって生じる疾患について学び、そこから考えられる機能障害および療養について考えていく。(食事、清潔、排泄等を含む)	予：人工肛門造設のきっかけとなる疾患調べ 復：要点整理
7	内部障害に応じた介護⑥	膀胱・直腸機能の障害がある人の主な治療、生活支援、環境整備、多職種との連携について学ぶ。	予：人工肛門利用者の日常生活上の注意点を調べる 復：要点整理
8	内部障害に応じた介護⑦	呼吸器機能の障害によって生じる疾患について学び、そこから考えられる機能障害および療養について考えていく。(食事、清潔、排泄等を含む) 小テスト	予：喫煙と呼吸機能の影響について調べる 復：要点整理
9	内部障害に応じた介護⑧	呼吸器機能の障害がある人の主な治療、生活支援、環境整備、多職種との連携について学ぶ。	予：在宅酸素・人工呼吸器装着者の病態違い調べ 復：要点整理
10	内部障害に応じた介護⑨	肝臓機能障害及び HIV ウイルス感染による免疫機能障害から生じる疾患を学び、考えられる機能障害・療養を考える(食事、清潔、排泄等を含む)。主な治療、生活支援、環境整備、多職種との連携について考える。	予：肝硬変に陥る主な疾患について調べる 復：要点整理
11	運動機能障害に応じた介護	運動機能障害が生じる病態を学び、考えられる機能障害・療養を考える(食事、清潔、排泄等を含む)。生活支援、環境整備、多職種との連携について考える。	予：感覚神経、中枢神経、運動神経連携調べ 復：要点整理
12	視覚障害に応じた介護①	視覚機能障害が生じる病態を学び、考えられる機能障害・療養について考える(食事、清潔、排泄等を含む)。生活支援、環境整備、多職種との連携を考える。	予：中途視覚障害に陥る主な疾患について調べる 復：要点整理
13	視覚障害に応じた介護②	視覚機能障害を持ちながら生活をしていく困難さをディスカッションを通して学ぶ。	予：先天的視覚障害と中途障害の相違点調べ 復：要点整理
14	聴覚・言語障害に応じた介護	聴覚・言語機能障害が生じる病態や、考えられる機能障害・療養を学ぶ(食事、清潔、排泄等を含む)。生活支援、環境整備、多職種連携を考える。小テスト	予：聴覚障害の言語機能にも支障原因を調べる 復：要点整理
15	重複障害<盲ろう>に応じた介護	重複障害<盲ろう>機能障害が生じる病態を学び、考えられる機能障害および療養について考え(食事、清潔、排泄等を含む)、生活支援、環境整備、多職種との連携についてグループワークを通して考える。	予：重複障害があるひとが過去の歴史でどのような苦悩があったかを調べる 復：要点整理
16	定期試験		